

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703105		
法人名	有限会社 健康サポートセンター		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	〒807-0872 福岡県北九州市八幡西区浅川1丁目25 - 6 093-695-1315		
自己評価作成日	平成24年07月13日	評価結果確定日	平成24年10月03日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりの中で、関係をより密にする為に地域の行事、神社の清掃等に参加させて頂いている。運営推進会議には、常に自治区会長・民生委員・包括支援センターの方々に来て頂き、入居者の御家族も多数参加されて充実した物になっている。毎月のイベントにも入居者ご家族、スタッフの家族を取り込み昨年よりも盛り上がりを見せている。その他、季節・天候・入居者の体調等を考えて、地域の祭りに参加したり、裏庭の菜園観察、草取り、散歩等を行っている。看護師が常駐し、入居者の体調管理と緊急時の対応を24時間体制で行い、医師との連携も密に取っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

八幡西区の学園都市の周りに、デイサービス、有料老人ホーム併設の2階建て2ユニットのグループホーム「ひだまり」がある。玄関のベンチに座り、陽だまりの中で、周りの景色や畑の野菜、メダカの成長を談笑している利用者に挨拶し、玄関から、家庭的で落ち着いた雰囲気のリビングルームに入ると、利用者同士の会話と、手芸上手な職員と一緒に、大作に挑む利用者の笑顔が印象的である。運営推進会議に半数の家族が参加し、各委員と一緒に意見交換し、地域との交流や、家族の心配事も、一気に解決される環境が整い、充実した会議である。また、今後のホーム運営について、利用者の重度化に向けた支援体制と、ここで、いつまでも暮らし続けるための、生活リハビリを取り入れた医療連携は、利用者の自立支援に向けた第一歩として、取組が始まっている「ひだまり」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5 - 27 093-582-0294		
訪問調査日	平成 24年09月21日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らししている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく安心して暮らして頂ける家をめざします」という理念を掲げ職員全員で毎朝唱和し、確認し合って共有実践に取り組んでいる	ホーム独自の理念を掲げ、毎朝唱和し常に理念を意識して、利用者が自分らしく安心して暮らせるよう、一人ひとりに合わせた介護サービスに取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園児によるエイサー踊りや小学生の体験学習、中学生、大学生のボランティア等の受入れをして入居者様に喜んで貰っている	地域の保育園児との交流や、中学生、大学生のボランティアの受け入れ、小学校の体験学習、地域の敬老会や清掃活動、金山川のイベント活動に職員が参加し、地域の一員として積極的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流も増え私たちに出来ることは地域へ出向きグループホームの存在、認知症に対する理解を広めたいと取り組んでいる		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1度入居者の家族、自治区会長、民生委員、包括支援センター職員グループホーム関係者などの出席。グループの現状報告後、活発に意見交換が行われている	運営推進会議にたくさんの家族が参加し、各委員と活発な意見交換が行われている。会議は、2ヶ月毎に開催し、形式的な会議に終わらず、区長からの提案で地域のサポート隊との連携が図られる等、会議で出された意見や提案は、ホーム運営に反映する取り組みがある。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターとの連携により情報の収集、当事業所の現状報告、又相談など行いアドバイスを受けている	運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの実情を理解してもらっている。また、疑問点や懸案事項等を、行政窓口を持参したり、電話で相談する等密に連携を図っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は入居者一人ひとりの癖や傾向を把握し見守りに努め、日中は鍵をかけないケアを実践している。安全確保のために玄関にはセンサー付きのチャイム、階段には門扉を設置し安全を確保している	身体拘束廃止マニュアルを整備し、定期的に研修を実施し、職員一人ひとりが理解した上で、身体拘束をしないケアの実践に向けて話し合いを重ね、利用者が安全で安心して暮らせる環境を整備している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は研修を受け入居者の気持ちを理解するように努める。職員相互の連帯によりゆとりを持って入居者と接するように取り組んでいる。より安全に安楽に介護出来るように福祉用具の活用もしている		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は権利擁護に関する研修を受け制度の理解を深めることに努めている。現在は活用している入居者はなし。入居者が必要となった場合も活用出来るように支援する	管理者、職員は、権利擁護に関する制度についての資料を用意し、内部、外部の研修を受講し、制度について学んでいる。利用者や家族が制度を必要とする時に説明したり、関係機関に繋ぐ等、支援体制が確立している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、契約書、重要事項説明書を家族にすべて説明し確認を取っている。疑問点に関してはその都度説明し納得して頂いている		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時、面会時、家族の要望や意見を聴く機会を設けている。又玄関前に意見箱を設置し、いつでも意見があれば入れて頂き、改善にも取り組んでいる	運営推進会議に約半数の家族が参加し、面会や行事参加の時、意見や要望を聴き取る機会を多く設けている。また、なかなかホームに来る事が出来ない家族に対しては、電話や手紙等で、利用者の状況や暮らしぶりを説明し、要望はないか尋ねている。出された意見や要望は、ホーム運営に反映する取り組みをしている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度全体ミーティングを行い職員よりその時々々の意見を聴く時間を設け改善、要望、意見は管理者が随時、代表者に報告している	職員会議は毎月定期的に行われ、研修やカンファレンスを同時に行い、長時間になる事も度々あるが、職員のやる気と探究心で、活発な意見が飛び交い、中身の濃い充実した会議になっている。出された意見を検討し、出来るだけホーム運営に反映させる努力をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のスキルアップのため職員一人ひとりが目標に向け今なにをすべきかを各自で考え行動し、向上心を持って働ける職場にするよう努めている		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に当たっては差別はしていない。意欲のある職員が生き生きと働ける環境を整えるよう努めている。希望休日、休憩時間の確保など個人の希望を組み込んだ就業シフトを作るように心掛けている	絵や工作、手芸、料理、レクリエーション等、職員一人ひとりの特技や、やる気を取り入れ、生き生きと仕事出来る職場環境を整えている。また、勤務体制や希望休等、出来るだけ希望を叶え、職員が働きやすい体制を目指し管理者の努力が続いている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する社外研修に参加し、社内研修を通し随時、人権教育に取り組んでいる	外部、内部の研修会に参加し、資料を揃え、職員全員が理解出来るよう工夫をしている。また、毎日理念を唱和し、利用者の人権を尊重するためには何をすべきか具体的に話し合い、日常のケアの中で利用者の人権を守る取り組みが始まっている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内にて年間計画に基づき研修を行っている。社外研修にも積極的に参加をし、カンファレンス会議時などに介護技術講習、知識、情報を共有、職員の資質向上に努めている	
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとは相互訪問など行い情報交換、意見交換を行いサービスの向上に努めている	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時しっかりアセスメントをとり本人の希望家族の思いを取り入れ安心して生活できるように配慮するよう努める	
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望者家族には当グループホーム内見学、運営方針、職員の対応について説明、家族の疑問、要望などは解決の方法を探りながら心地良く生活できるよう努める	
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	プラン作成時本人、家族の生活史を知りどのような支援が必要かをじっくり考えながら満足のいく個々のサービスを利用できるように努める	
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は人生の先輩である入居者より学ぶ事も多く会話の中で生活の知恵を教えてもらうことも多い。職員と共に食事の下ごしらえ、植木の水やり、洗濯物干し・タミ等、自宅での生活を感じれる様に支援している。	
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族と連絡をとり合い、本人の状況、状態を共有しながら入居者が心地よく生活できる様な場所でありたいと考えている。訪問時には自室にてお茶を飲みながらくつろぎ、家族又は訪問者との交流を深めて頂いている。イベントには声かけを行い参加を促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人との関わりのある来訪者は歓迎している。また、家族との外出、外泊は自由に行い、元の関係が途切れないように勤めている。	友人、知人の面会や、併設のデイサービス、有料老人ホームの顔なじみの方との相互交流等、馴染みに関係が途切れないよう支援をしている。また、利用者の行きたいお店への同行や、家族との外出、外泊等、利用者一人ひとりの思いに出来るだけ沿えるよう支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の見守りの中、入居者で協力し、洗濯物干し・衣類をたたむ・雑巾・布巾作り・もやしの根取り等、一緒に楽しみながら行っている。入居者様同士の口論もあるが、職員が間に入り、話を聴く等、適切な対応で穏やかに過ごせる様に支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当グループホーム退所後も入院先へ訪問、本人、家族との交流を続けている。また、退所後、亡くなられた入居者様の葬儀・初盆には必ず、参列させて頂き、ご家族との連絡も継続している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者のペースで柔軟に対応し主体性を持つよう配慮する。安全面を重視して決まり事は最小限にしている。サインつばやきを見逃さず一人ひとりの思いをくみ取り意向に添うように心がけている。困難な場合は職員間で検討を繰り返し少しでも改善出来る様に努める	職員は利用者寄り添い、その表情や独り言から思いや意向を読み取り、出来るだけ希望に沿った支援が出来るよう努力している。また、家族に相談したり、過去の記録を読み返す等、利用者が一日一日を楽しく暮らせるよう支援している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室内は入居者の生活歴を大切にし本人なじみの家具、写真などを活用、生活環境の変化を最小限に抑えている。心身の変化・状態の変化を把握しケアプランの見直しを行っている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シート、業務日誌、生活記録などで観察、記録を行い心身の状態の変化を把握し対応する		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画、モニタリングは入居者、家族の要望を受け、管理者、看護師、担当職員で話し合い現状に即したプランを立てモニタリングを行いながら状態観察をしている	利用者や家族と話し合い、希望を聞き取り、主治医や関係者で話し合い、3ヶ月毎に介護計画を作成している。また、家族と常に連絡を取り合い、利用者の心身の状態を話し合いながら、方針を共有し、その都度介護計画を見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シート、業務日誌、介護サービス実施表などから実践後の評価を行い職員間で協議しプランの見直しを柔軟に行っている		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の病院同行、看護師常駐による健康管理、地域のイベント参加、春の花見、ドライブ、外食など家族も巻き込みその時々出来る事をしている		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭り・イベント等に参加し、地域との交流を行っている。又、こちらから入居者が参加する事が出来ないで、職員が地域のボランティア活動(清掃等)などに参加している。今後、入居者が出来る活動を探して行きたい。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望を大切に、それぞれかかりつけ医の受診支援を行っている。家族が何かの理由で同行できない場合は、看護師が同行するなど、医師との連携を取り、指示を仰ぎながら支援している。	利用者や家族の希望を聞きながら、かかりつけ医、協力医療機関を選択してもらっている。利用者の健康状態を維持するために、定期的な住診や「病院受診表」を持参して受診支援を行い、常勤看護師、介護職員の細やかな見守りと合わせ、安心出来る医療体制を確立している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常に、状態の小さな変化でも見逃さず、看護師へ報告している。常勤看護師による、健康管理また月に一度健康情報提供書をかかりつけ医に提出し、個別の健康管理を行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院、協力医と連携し早期受診、早期発見に努めている。入退院の際は病院訪問にて状態を把握し情報の交換を常に行っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、御家族との連携を取り本人、御家族の希望に添って看護、介護に当たっている。職員研修を行い全体で取り組み主治医への連絡、報告し指示を仰ぎながら支援している。	ターミナルケアの指針を作成し、利用者や家族に説明し了承を得て、出来る限り利用者、家族の希望に沿えるよう、主治医、家族と連携を取りながら、看取りの支援を実施している。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修は毎月行っている。その中で定期的に 応急手当、緊急時対応に関する研修も行い 実践できるように取り組んでいる。	
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を定期的に行っている。火災時に備 え職員の役割分担を行い役割を遂行するよう に心がけている。また、夜間想定避難訓練を 同敷地内にある有料老人ホームと合同で行っ た。避難場所として、近隣の駐車場を確保して いる。避難時の食料、飲料水、毛布は備蓄して いる。	消防署の協力と自主防災組織による避難訓練 を昼夜を想定して年2回実施している。隣接有 料老人ホームの職員との連携体制を確認し、居 室の前にテープ(黄は護送、赤は担送)を貼って 搬送区分を表示する等、利用者が安全で安心し て避難出来る体制を確立している。また、災害 時に備えて、非常食、飲料水、毛布の備蓄をし ている。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシー を損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を尊重し寄り添う介護を基本として いる。一人ひとりに合った対応を心がけてい る。	職員は常に利用者を敬愛し、優しい言葉かけや さりげない見守りで、利用者のプライドを傷つけ ない介護サービスの提供を目指している。個人 情報の資料は人目につかない場所に保管し、職 員の守秘義務の徹底も図られている。
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	入居者とのゆっくりとした対話の中で本人の希 望や気持ちを見つけ、自己決定出来る様に対 応する。	
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースで柔軟に対応し主体性を持て るよう配慮する。安全面を重視して決まり事は 最小限にしている。	
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	衣類の乱れ汚れなどには日ごろから気をつけ ている。入居者の体感にあわせ衣類の着脱を 行い健康管理に努めている。月一回の訪問散 髪を利用する方、又家族とパーマをかけに行か れる方も居られる。男性は入浴時には、必ず、 髭剃りを行っている。	
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	食事の順備、片付けなど共に行い食べ易いよ うに切り方、形、見た目など共に考えながら調 理をしている。食事介助等を必要とされる方 や、カロリー制限のある方にも、工夫を凝らし、 食べて頂いている。調理を担当した職員も一緒 に同じテーブルで食事をしている。	職員が交代で作る食事は、カロリー計算され、 栄養バランスの取れた献立である。利用者職員 が談笑しながら、同じテーブルで同じ料理を 食べ、家庭的で楽しい食事風景である。また、給 食委員会では味、硬さ、形態、色合い等、検討し ながら美味しい食事作りに繋げている。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の立てたバランスの良い献立で調理を行い、食事摂取量、水分量など個人個人の摂取量を職員が記録、集計し健康管理に当たっている。月一回の体重測定にて体重の変化も観察している。			
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は研修を通して口腔ケアの大切さを学び毎食後、歯ブラシにて口腔内のケアをして頂いている。自分で出来ない方は職員が介助しながら行っている。義歯はお預かりし翌朝、装着している。			
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄パターンを把握し、表情等で見極め、排泄の誘導を行い、自立を目指して支援している。布パンツが本来の姿とし、それに向けて、力をいれ、取り組んでいる。	基本は、トイレでの排泄を目指している。職員の努力と利用者の頑張り、紙おむつから布パンツに変更になる事例もあり、利用者の自信回復に繋げている。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操・リハビリ体操にて、体を動かし、水分補給をしっかりと出来る様に一人ひとりの水分摂取量の記録、排尿・排便がスムーズに行えるように心がけている。			
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は週3回だが入居者の希望、健康状態など考慮し、いつでも入浴できる状態にしている。安全面・羞恥心には配慮しながら、介助、見守りを行っている。	入浴は週3回であるが、利用者のその日の状態や気分を聞きながら日時を変更する等、柔軟に対応している。入浴を拒否する利用者には、時間をずらして声をかけたり、職員が交替するなどして、無理強いせず、楽しく入浴出来るよう支援している。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの1日の流れや行動を把握し、日中の休息が必要な入居者には自室にて休息。夜間、安眠出来るよう、個々に対応している。			
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を職員が把握し、服薬時には必ず、声に出して、日付け・名前を確認後、手渡し又は、職員が投薬、飲み込むまで確認し、服薬確認表に記帳している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳・食後の片付け、テーブル拭き、洗濯物干し・たたみ等、自発的に参加され職員見守りの中でやっている。レク係が年間計画に基き、イベントを行い、楽しんで頂いている。			
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外泊は出来ないが、御家族同行で気軽に外出はしている。本人の希望により職員と共に散歩を楽しんだり、花見・地域の祭りなどに参加、交流を持っている。	散歩やドライブ、花見、外食、買い物等、天気の良い日は出来るだけ外の風に当たってもらい、季節を肌で感じられるよう取り組んでいる。また、外出や外食等、家族の協力をお願いをする事もある。玄関前のベンチに座って、メダカの観察は利用者の楽しみになっている。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、御家族及びグループホームで行っている。外食の時などは、御家族・職員が同行にて支援している。			
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者・御家族の希望に応じ、電話で話が出来る様に支援している。遠方の娘さんに職員がお手伝いしながら、お手紙を書き、近況をお知らせしている方も居られる。			
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室にソファを置き、自由にくつろげる空間を作り、玄関前にはベンチで外の風や光を感じる様に工夫している。	玄関にベンチを置き、メダカの観察や周囲の景色を眺めながら、利用者同士の会話が弾んでいる。利用者、職員による手作りの作品が飾られた家庭的な雰囲気のリビングは、ソファを置いた和室に続いており、利用者が自由にゆったりと過ごすことが出来る共用空間となっている。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時は会話がはずむ様、小グループで行い、和室・廊下にベンチを置き、自由に会話を楽しんでいる。自室にも自由に出入りしている。			
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具、生活用品を活用。少しでも落ち着ける様に家族と相談しながら、部屋作りをしている。	居室は、利用者の大切にしてきた物や馴染みの家具、小物を家族の協力で持ち込み、自宅で暮らすような家庭的な雰囲気作りの支援をしている。また、居室の入口には、個々の居室と判るよう、利用者の笑顔の写真や習字の作品等を飾っている。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札・顔写真を貼り、自室がわかる様になっている。安全に移動が出来るよう、バリアフリー・手すりを設置。食事の準備・後片付け・洗濯物干し、たたみ等、介護士が見守りながら、一人ひとりに出来る事を行っている。			